



星川だより



熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

壁ではなく橋を架けよう

吉田庄一



英国のロックバンド「クイーン」のヴォーカル、フレddie・マーキュリーの半生をクイーン・の楽曲とともに綴った映画「ボヘミアンラプソディ」が世界的に大ヒットしています。日本では興行収入が100億円を突破したそうで、熊谷でもロングラン上映が続いています。クイーンがデビューした当時、英国や米国での評価は今ひとつで、彼らの成功に火を付けたのは、日本の若い女性たちでした。ユニセックスのいでたちにした美しいコーラス、そんなイメージでの登場で、プリティッシュロックファンの私は、素直に

「いいなあ」と認めたくないどころか屈折した心持ちだったことを思い出します。本映画の最後は「ライブ・エイド」の再現です。圧倒的なパフォーマンスは伝説になっていました。ちなみに「ライブ・エイド」は、「アフリカ難民救済」を目的として、1985年7月13日に行われた、20世紀最大のチャリティコンサートです。英米で同時開催され多くの有名アーティストが参加しました。

年末でしたか、NHKの朝のニュースでクイーン・のギターリスト、ブライアン・メイにインタビューした内容が放映されました。フレddieの命日にお孫さんたちと観に行ったことなど話していましたが、編集の都合でしょう、ちよつと唐突に見えたのですが「壁を造るのではなく橋を架けなくてはならない」と彼が言っていたことが脳裏に残りました。1月19日全米で100万人以上が参加した反トランプ女性大行進でも、このフレーズは聞かれました。ブライアン・メイは明らかにトランプのメキシコ国境への壁を意識した発言だったのでしょう。脈絡もなく唐突に思えたのは、国際的な潮流への鈍

感があるのかも知れません。マスメディアの取り上げ方もあるでしょう。世界的な#MeTooムーブメントが日本で今ひとつ盛り上がり欠けたことも同じように感じました。

メキシコ国境だけでなく英国もEUとの橋を閉じようとしています。また、ヨーロッパ各地ではアフリカや中東からの難民受け入れに反対する右翼政党が台頭していて、偏狭な民族主義が支持を拡大しています。アメリカほどあけすけでなくとも各地で壁を造ろうとしている訳です。難民となる原因を解決しようという良識や知性は、押し戻されてしまっているようです。そもそも、その原因の一つは、欧米諸国の身勝手な振る舞いにあるわけです。

翻って日本を見てみましょう。年末年始の話は、隣国韓国に関するものが多く、徴用工問題やレーザ照射問題などを政治問題化して、韓国に対するパッシングが続いています。最近では、リベラルなメディアも含めて、その対立を煽るような傾向が強くなっているように感じます。国際的な対立、緊張には、その要因があるわけで

すが、その一方で対立や緊張を静めるような良識が働かなくてはならないのです。

「日本」へ「アメリカ」、「アジア（特に、中国、韓国、北朝鮮）」へ「日本」の不等式は日本人の情動として存在している訳で、嘆かわしいことですが不寛容は拡大しています。経済的な優位性が覚束なくなり、従来からの民族的な優越感に満ちた侮蔑的な感覚が頭を擡げているのではないのでしょうか。テレビなどでは、ことさら日本の「すごいところ」を強調する番組が多くなっていると思います。私は非常に違和感を覚えるのですが、溜飲を下げている視聴者は多いのでしょうか。為政者は、そんな日本人の心持ちにうまく取り入り、あるいは誘導して己の政治的な野望を実現しようとしています。私たちは、韓国、中国、台湾、北朝鮮そしてロシアに対して、対立を煽るのではなく、さまざまな困難が立ちほだかろうと、橋を架ける努力をしなければなりません。それが人類の叡智でもあると思います。

（今年もよろしくお願ひします。編集部では投稿をお待ちしています）

詩

今、私たちは

米田かずみ

大浦湾から辺野古の海を見渡すと
真つ青な海が空まで溶ける

サンゴの群落

ウミガメ、ジュゴンなど

水底まで射し込む光の中で
息づいている

それが沖縄の海

手のひらに貝をのせると

のどかな三線の音が
遠い時間の中から聞こえてくる

今、その海を

ブルドーザーが削り、埋め立て

次々に殺している
人々と共存してきた生き物たちを

見上げれば

空に
轟音と共に不気味な鉄板が飛んでいる

私たちは望んだらうか

こんな海を

こんな空を

沖縄を返せ

そのために

私たちは今

こぶしを握ろう



在宅ライフ倶楽部とのリレーイベント開催！

東日本大震災と福島原発事故、大津波をはじめとした未曾有の災害、そして広範囲におよぶ放射能汚染は何をもたらしたのだろうか。在宅ライフ倶楽部とのリレーイベントで8年目の今を考えます。

■在宅ライフ倶楽部 3月17日(日)

- 太田初子講演会「夢は流されない」
- ・東日本大震災の津波(気仙沼)からの生還、生きる力と学びの高みへ
- ・立正大学 アカデミックキューブ A205 教室
- ・13:30～ 無料

■熊谷空襲を忘れない市民の会 3月23日(土)

- シンポジウム「被ばく地からのメッセージ～ビキニとフクシマ～」
- ・コーディネーター 加藤一夫さん
- ・現地報告 高橋次男さん(ビキニ) 桑原正人さん(フクシマ)
- ・熊谷市緑化センター2階
- ・1階ホールでは、絵画とパネル展を開催
- ・500円(シンポジウム)

被ばく地からのメッセージ

～ビキニとフクシマ～



2019年 3月23日(土)
14:00～16:30(開場13:30)

熊谷市緑化センター

シンポジウム(2F 研修室)

- コーディネーター: 加藤一夫さん(元静岡福祉大学学長)
- 現地報告: 高橋次男さん(ビキニ報告)
- 現地報告: 桑原正人さん(福島報告)

茶休費を含んで参加者によるシンポジウムおよび質疑応答

絵画とパネル展示(1Fホール)

主催: 熊谷空襲を忘れない市民の会

参加費: 500円(シンポジウム)

後援: 熊谷市教育委員会

無料

太田初子講演会
夢は流されない

東日本大震災の津波からの生還、生きる力と学びの高みへ

日時: 2019年 3月17日(日)
開場: 13:00 開演: 13:30

場所: 立正大学(アカデミックキューブA205教室)

主催: 在宅ライフ倶楽部

後援: 熊谷市教育委員会
熊谷市社会福祉協議会
清水海陸ゼミ

在宅ライフ倶楽部

熊谷市緑化センター2階

被ばく地からのメッセージ
～ビキニとフクシマ～

～ カンパのお願い ～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、会計報告はこの紙面により行います。

ゆうちょ銀行

口座記号・記号: 00100-7-265321

加入者名: 熊谷空襲を忘れない市民の会
口座名称カナ: クマガヤクウシュウワウス
レナイシミンノカイ

他行からの振り込みの場合は

店名(店番): 〇一九店(019)

預金種目: 当座

口座番号: 0265321

会計報告(2018/09/13～2019/01/15)

収入: 15,700円

支出: 11,860円

残高: 132,529円

編集担当者を募集します。

編集委員 吉田庄一 米田主美

連絡先 吉田庄一(090-4957-9181)

メール imajn241@gmail.com



★★★★★ 熊谷平和講座のご案内 ★★★★★

熊谷平和講座

宗教と平和

熊谷空襲を忘れない市民の会では、毎月一回、加藤一夫さんを講師に平和について学んでいます。今回はその19回目になります。どんなにでも参加できます。

講師の講話(熊谷空襲)
第1回 「教義と「平和」の50の経路」 第10回 現地150年を振り返る
第2回 「戦時下の「平和」の経路」 第11回 空襲直後の熊谷市
第3回 「外交と「平和」の経路」 第12回 「戦争」について考える

日時: 2月16日(土) 13時半～15時

場所: 熊谷市立障害福祉会館 第1会議室
熊谷市近所2-66
熊谷市近所近く、市役所の駐車場が使えます。

講師: 加藤一夫さん
熊谷市在住、元静岡福祉大学学長、名誉教授、熊谷空襲を忘れない市民の会賛助人。

参加費: 無料(カンパ歓迎)

主催: 熊谷空襲を忘れない市民の会
(http://www.peace-kumagaya.org/)

問合せ: 070-5551-7734(ひがし)

熊谷平和講座

熊谷空襲を忘れない市民の会では、毎月一回、元静岡福祉大学学長の加藤一夫さんを講師に熊谷平和講座を開催しています。2月は16日(土)13時30分から障害福祉会館(三河屋の南、駐車場は市役所をご利用ください)で開催します。第13回目となるテーマは「宗教と平和」です。参加費は無料です。ふるってのご参加をお待ちしています。